

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 2月 1日

事業所名 ぽこりっと

保護者等数(児童数) 14名 回収数 13名 割合 93%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13	0	0	0	記入なし	国の設置基準以上の広さがあり、集団活動時死角のない指導員の目が届く一つの空間を用意しております。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	8	2	0	3	OT.STの配置をしてほしい	児童定員10人に対して保育士3名、児童指導員1名、音楽療法指導員1名の充実配置体制を取っています。機能訓練担当職員の配置については今後検討します。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	10	0	1	2	記入なし	室内は障害物や段差のないバリアフリー化しており、玄関入り口も車いす用のスロープも設置しています。
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	13	1	0	0	記入なし	計画会議時は保護者だけでなく、相談支援、学校担任、他支援する事業所の担当者と連携して計画会議を開くよう努めています。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	12	0	0	1	記入なし	マンネリ化を防ぐためにリアルタイムで活動の様子を保護者LINEで発信し、児童の特性を考慮しながら活動プログラムを毎日、集団、個別に分けて立てています。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	1	2	5	記入なし	感染症対策もあり、地域の施設や公園等で一緒に遊ぶ機会がありますが、交流目的の設定は行っていません。地域に根ざした活動には参加します。
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12	1	0	0	記入なし	今後もわかりやすく丁寧な説明することを心がけてまいります。質問、相談、苦情受付には随時受け入れられる窓口を開いています。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12	1	0	0	記入なし	保護者との連絡はリアルタイムなLINEで行い、お子様の活動の様子、状況を保護者の皆様と早期情報共有し、どのように支援していくかを一緒に考えていけるように努めていきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	0	1	0	記入なし	最低でも3ヶ月の定期的なモニタリングに加え、公開療育・ペアレントトレーニング・保護者懇談会も毎年開催しています。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	1	1	4	記入なし	今年は11月に、公開療育・ペアレントトレーニング・保護者懇談会を開催し、保護者ばかりでなく行政、学校担任も参加していただいた。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	1	0	2	記入なし	相談窓口を1本化して第三者委員まで体制を整備しており、毎月の全体ミーティングでの事例報告、検討や職員研修にも参加させて迅速・適切な対応を目指しています。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12	0	0	1	記入なし	言葉だけでなく、視覚的に理解しやすい写真、絵カード等を使用したり、大型スクリーンの活用などで情報伝達をお子様、保護者に応じて検討しています。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	13	0	0	0	記入なし	ホームページにて活動の様子や行事予定、お知らせ、自己評価等も配信しています。また保護者連絡網LINEでの情報の伝達には、迅速、正確さに努めています。
14 個人情報に十分注意しているか	12	0	0	1	記入なし	マニュアル作成をして保護者にも個人情報保護の同意書を交わし、職員にも周知徹底をさせています。	
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	8	0	2	3	地震などで万が一携帯が通じない場合、子供の居場所がわかるようにしてほしい。	事故防止のための各マニュアルを作成して、職員にも即座に対応出来るように研修会や訓練を行っています。今年度は、消防訓練(年2回)、救命講習、不審者対応訓練、BCP訓練もを行い、既に送迎車には置き去り防止システムの設置も完了しております。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8	0	0	5	記入なし	近隣住民の協力も得ながら、児童と共に年2回は消防局の立ち合いのもと自然災害、火災避難訓練や職員にはBCP訓練を行っています。
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	12	0	0	1	まだ利用開始したばかりで慣れていない様子	「通所が楽しみです」という声が多いが、更に満足度が得られるように切磋琢磨したい。
	18 事業所の支援に満足しているか	13	0	0	0	記入なし	もっと地域の方との結びつきが持たて、愛される施設作りをしたいと思えます。

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)



公表:令和 6年 2月 1日

事業所名 ほこりっと

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		令和5年5月に新設して十分なスペースを確保しました。	必要以上に十分なスペースを確保しており、スタッフルームとも常に目が届くオープンスタイルである。
	2 職員の配置数は適切である	○		児発官1名、保育士3名、児童指導員1名を配置し充実体制を図っている。	職員も実践経験のある方を採用しています。今後、専門的支援が出来る機能訓練担当職員を配置も検討したい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		令和5年5月に新設してバリアフリー化しました。	室内は車椅子での受け入れも可能になりました。場合によっては、送迎車のリフトアップ車の購入も検討したい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎朝、全体ミーティングを開き、10回利用ごとに児童個別ミーティングも開いている。	職員全員で協議するようにしているが、日々の活動だけでなく、今後の改善、提案力を伸ばしていきたい。またケース会議や各委員会での話し合いも定期的に開催してPDCAサイクルを実行している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		今回もアンケート調査を実施しました。	開所年度より自己評価アンケート調査を行い、結果を公表するとともに、職員間でも結果を共有し、業務改善に繋げています。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者にはホームページとLINEでの公開をしました。	今後もホームページに掲載公開する予定です。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	今は実行できていない。	外部評価が出来る機関が限られており、多額のコストがかかることで検討中。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		事業所内研修ほか外部の研修にも出している。	オンデマンドの研修会が多いが、出来る限り外部研修には参加させている。事業所内研修会も月1回テーマを決めて開催している。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者、学校、他の施設からも連携を図り、情報収集して計画を作成している。	連携機関にもできるだけ参加を促して多職種連携の計画会議を開いている。出来ない事ばかりでなく、出来るような事、強みも生かせる利用者の想いにつながる計画作成をしていきます。
適切な支援の提供	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者がわかりやすい標準化されたツールを使用している。	利用児童の詳細な情報を把握するためにも今後は、知能や発達段階の専門的な検査や理解が出来る職員を育てたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全員で特性を検討しながら毎日違うプログラムを立案している。	職員全体が一つのチームとして割り当て分担を決めて、準備の段階から取り組んでいる。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子供達が楽しみ、興味が持てるプログラムを毎回立てるようにしている。	マンネリ化しないように、毎日、活動の様子を保護者にLINE発信して評価をもらい、反省を生かす活動プログラムを立案していきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇には普段取り組めない創作活動や見学などを取り入れている。	職員全員が今日の活動の目的が何であるかを理解して、感染予防対策を十分考慮しながら活動内容を設定します。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別または小集団と全体集団を組み合わせている。	活動内容に応じて個別または小集団と全体集団で組んでいる。どうしても長期休暇時が個別活動が多く取れる状況が多い。個別活動については専門性スタッフの充実体制も課題である。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に役割分担、支援内容の確認を行い、必ず支援の振り返りを行っています。	その日の状況次第で変更もあり得るので職員LINEで職員全員が情報共有をいち早くして内容確認が出来るようにしていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了前後、必ず共有ミーティングを行っています。	特に学校側や保護者からの申し送りが密に共有出来る体制作りをします。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録は必ずその日のうちか次の日までに記載しています。	適正に記録を取れるように、個別に10回利用のペースで内容の検証を行い、特に時間・支援内容の記載にはチェックをしています。また記録の取り方の職員研修も行います。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		最低でも3か月に1度のモニタリング会議を開いています。	学校側、相談支援、支援する他の施設にも出来るだけこちらからの声掛け連携を図り、児童の成長に伴う課題を整理して計画の見直しの必要性判断を行っています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている		○	基本は守るようにしている。	平日は預かる時間も限られていることから複数の組み合わせは難しい。地域社会への参加・包容を推進し、バックアップ出来る支援体制を築きたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本、児発官と担当の保育士が参加するようにしている。	学校側や行政の他にも他の事業所も利用していればこちらから声かけをして支援する事業所が一同に集まって連携会議を進められるように配慮しています。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校側とは迎え時を利用して担任に申し送りを受けたり学級通信をもらい行事や下校時刻の確認をしています。	学校の情報は保護者からLINEで早く共有出来ている。学校側とは、必要な事は窓口である教頭先生を通じて担任の先生との会議を開催をお願いしたりして常に連携を図れる状態を図れるように努力しています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	服薬のある児童は処方薬の情報表を保護者から提出してもらい、かかりつけ医の情報を受けている。	医療的ケア児コーディネーターの資格も取っており、今後も服薬管理や病院の主治医からの情報、医療との連携体制を密にしていきたいが、受け入れに適した設備が整っていない為、医療的ケア児の受け入れ予定は現段階ではない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		出来る限り、就学前に利用中の施設に保育士を派遣して情報の共有・申し送りを行っている。	保護者の了解を得た上で就学前の各施設に保育士を派遣して情報収集に努めるようにしています。しかし、まだ感染症拡大もあり、施設によっては電話だけの情報に留まることもある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		学校側や就労系事業所などと連携を図り、移行支援会議を開いている。	経験豊かなスタッフもおり、就労継続支援事業所や共同生活援助事業所などとの関係性を生かして支援内容の情報を提供を行える。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		センターとの連携会議にも参加し、研修会にも出席している。	出来る限り、連携を図り、研修も受けるようにしています。また県自閉症協会からのアドバイスも受けるようにしています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	他の放課後等デイサービスや地域の児童との交流を図っています。	他の放課後等デイサービス事業所とは交流があるが、障害のない子供と活動する機会は地域での施設や公園等以外ないので、地域に根差した交流機会を設けたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		出来る限り参加するようにしています。	感染症拡大の時は協議会自体が延期している場合も多いが積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		活動の様子は毎日リアルタイムで保護者にLINEで伝え、共有化を図っています。	保護者とは、お互い早い情報共有を目指しています。連携支援会議も各事業所や学校にもこちらから声掛けを行っています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		今年度は11月に公開療育とペアレント・トレーニングを行いました。	保護者からの相談・ペアレント・トレーニングが出来る職員の育成が課題なので、鹿児島県自閉症協会の協力も得て職員の資質向上を図っている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		わかりやすく丁寧な説明を心掛けています。	契約時は丁寧な説明を心がけています。保護者からは、支援の流れ・支援体制がわからない等の意見も多いので不明点があれば理解しやすいように説明をしています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者LINEでいつでも相談できる体制を取っています。	連絡・相談は随時受けているが、必要とあれば、専門性のある支援事業所や医療機関との協力も得て一緒に相談に参加出来る体制作りを目指したい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		家族懇談会(交流会)を年に最低1回は開催している。	今後も、保護者の皆さまが集まりやすく、会話が持てる場所は提供したい。母親ばかりでなく父親の会も開催したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情相談窓口も設定し、対応を一本化している。	早目の苦情処理体制を取りたい。その為には日頃からの保護者との信頼関係が大切だと思っています。また苦情マニュアルに基づき定期的な苦情解決委員会の開催や苦情対応に関する研修会にも職員を参加させていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動情報はLINEで常に発信しているが、定期的な会報はあまり発行していない。	保護者LINEで活動の概要や行事予定等は毎日、情報発信しています。活動の様子はInstagramに投稿したり、ホームページ上に公開するようにしています。
	35	個人情報に十分注意している	○		十分配慮し、個人情報保護の同意書も必ず提出してもらっています。	契約時に保護者には個人情報の取り扱い・保護規定を説明し、個人情報保護に関する同意書に同意を受けています。管理についても窓口・管理・保管を万全な体制にしております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		文字や絵、写真等視覚的にわかる形で情報の伝達を行っています。	生活や学習の様々な場面で、その意味を理解し、自分に何が期待されているのかをわかりやすく伝えたり設定したりする構造化(TEACCHプログラム)する学びを取り入れたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域住民との交流会や防災訓練やイベント等も開催もしている。	地域の方々に愛され大切にされ、地域の貢献できる事業所を目指しています。また防災面にも地域住民との協力関係を築いており、県自閉症協会と協力して各種イベント等の参加も促しています。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルは作成し、事業所内にも掲示しています。	職員には研修会・訓練を開き、周知が行えているが、実践で生かせるようにしたい。防犯についても保育園経営もしていることから警察機関との協力で不審者対応防犯訓練も行っています。今後も懇談会などで保護者への説明も行っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回消防局の立ち会いで火災、自然災害避難訓練を行っている。	職員だけでなく利用児童や地域住民の協力も含め訓練に参加させ、災害に対する意識を持たせている。またBCP(事業継続計画)のリスク管理の訓練も実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		事業所内研修は最低年1回、外部研修にも職員は参加させている。	虐待とは、どういふものかをマニュアル作成をして機会あるごとに職員に研修を行っていますし、虐待防止委員会の設立や内部アンケートも実施して職員の意識の向上を図っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束についてのマニュアル作成をして職員に周知させている。身体拘束防止委員会の設立もしています。	今は該当する児童がいないが、起こり得る可能性がある場合は、計画に記載し保護者の了承を得たい。また対応の専門性を高めるために職員には身体拘束・強度行動障害の研修にも参加させています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	アレルギーの告知は保護者からしてもらうが、医師からの診断・意見書まではもらっていない。	病院での治療を受けている方は、処方薬情報は提出してもらいアレルギーに対応はしていますが、医師の指示書まではもらえていないので必要があれば今後検討します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット対応策を職員全体でその日のうちに会議を開き対策を話し合っています。	その都度、事例の報告を上げるようにして対策会議を開いています。利用者に影響度が高い場合は、第三者委員に報告したり、病院受診の場合は市と県に報告をします。